

Asia Anarchy Alliance

アジア・アナキー・アライアンス

2014年3月8日(土)～2014年4月20日(日)

トーキョーワンダーサイト渋谷・トーキョーワンダーサイト本郷

——東京/台北巡回展！台湾の若手キュレーターが手がけるアジア気鋭のアーティストたちの競演！



昨今のグローバル化が進む世界は、新自由主義と情報ネットワークの時代を迎え、あらゆる境界線が曖昧になりつつあります。一方、アジア諸国は、前世紀からの西洋的概念の広範化に伴い、言論の欠如を受け入れてきました。現代アート界においても、いまだ西洋美術が世界の中心にあり、アジアのそれは言わば亜流であり、添え物のように語られる時代が長く続いています。「アジア・アナキー・アライアンス」は、そのような状況に波紋を投じるべく、我々がアジアで直面している様々な問題を集結し、アートの文脈に載せて発信します。

東京編となる本展では、トーキョーワンダーサイトと台湾若手キュレーター、ウー・ダークンの共同キュレーションのもと、チェン・ジエレン、ユエン・グアンミンをはじめとする台湾、インドネシア、中国などアジア圏から注目すべきアーティストたちの作品を紹介。また、西京人(小沢剛、他)や坂口恭平を招き、展覧会に先駆けて実施する「東京湾ポート会議」のドキュメントも上映します。さらに、都内のサテライト会場にて、映像作品の上映会など関連企画を実施予定です。また、東京での展覧会に続いて、2014年5月より台北關渡(かんじゅ)美術館にて展覧会を開催。東京編に参加するアーティストに加え、会田誠、森村泰昌を筆頭とする日本人アーティストや、ディン・Q・リー(ベトナム)、ジュンホ・チョン(韓国)といったアジアを代表するアーティストたちが参加予定です。

展覧会概要

- 展覧会名: アジア・アナキー・アライアンス
 会期: 2014年3月8日(土)～2014年4月20日(日)
 会場: トーキョーワンダーサイト渋谷(渋谷区神南 1-19-8)、トーキョーワンダーサイト本郷(文京区本郷 2-4-16)
 ※その他サテライト会場でのイベントも予定しています
 開館時間: 11:00～19:00(最終入場は30分前まで)
 休館日: 月曜日(祝日の場合は翌火曜日) ※サテライト会場は各会場の開館時間休館日に準ずる。
 入場料: 無料 ※サテライト会場でのイベントについては会場により異なる。
 企画: ウー・ダークン(關渡美術館チーフキュレーター)
 主催: 公益財団法人東京都歴史文化財団 トーキョーワンダーサイト
 關渡美術館(国立台北芸術大学)
 プロジェクト・フルフィル・アート・スペース(台湾)
 助成: 財団法人国家文化芸術基金会(台湾)
 協力: NANZUKA
 アーティスト: チェン・ジエレン、ユエン・グアンミン、ヤオ・レイヅオン、ドウ・ペイシー、ジャン・リーレン、チェン・ジンユエン、チェン・チンヤオ、イエ・チェンユ(以上、台湾)、ジョンペット・クスウィダナント(インドネシア)、スン・ユアン+ポン・ユウ(中国)、西京人[小沢剛、チェン・シャオシオン、キムホンソク]*、坂口恭平*
 *「東京湾ポート会議」(非公開)に参加。
 ウェブサイト: <http://www.tokyo-ws.org>

國立臺北藝術大學  關渡美術館
Taipei National University of the Arts Kaohsiung Museum of Fine Arts

 就在藝術空間  國藝會
PROJECT FULFILL ART SPACE NCAF

◎ オープニング・レセプション: 2014年3月8日(土)18:00～トーキョーワンダーサイト渋谷(予定)

<お問い合わせ>

〒150-0001東京都渋谷区神宮前5-53-67コスモス青山SOUTH棟3F

公益財団法人東京都歴史文化財団トーキョーワンダーサイト 広報担当: 千賀・石川

TEL: 03-5766-3732 E-mail: press@tokyo-ws.org

展覧会について

本企画「アジア・アナーキー・アライアンス」は、台湾の若手キュレーター育成を目的とした「インターナショナル・レジデント・リサーチ・アンド・エキシビション・エクスチェンジ・プログラム」(財団法人国家文化芸術基金会[台湾]主催)の公募審査を経て選考されました。その選考を受け、企画者ウー・ダークンは、2012年、トーキョーワンダーサイト(TWS)の協力のもと、TWS 青山:クリエイター・イン・レジデンスに滞在、調査を行いました。その成果発表として本展覧会および台湾での展覧会が実施されます。

企画者略歴

ウー・ダークン

1974年生まれ。2002年国立台北芸術大学卒業。

アーティスト、キュレーター、批評家。アーティストとして、ビデオやサウンドを用いて、人間と身体感覚を喚起させるインスタレーション作品を主に制作する傍ら、BLUE DOT ASIA 招聘による「Illusion Theater – New Contemporary Art in Taiwan」(ソウル・アート・センター、韓国、2008)よりキュレーターとしてのキャリアを開始。その後、「Republic without People」(高雄市美術館、台湾、2011)で「第10回台新藝術獎審査員特別賞」を受賞。また、同展覧会は芸術雑誌選出の公立展覧会ベスト10に選出された。その他、「Stand-In Techniques II – New Taiwanese Video Style」(香港中文大学、香港、2012)、「Stand-In Techniques I – New Taiwanese Video Style」(Gallery 456、ニューヨーク、2010)、「Illusion Theater - New Contemporary Art in Taiwan」(ソウル・アート・センター、韓国、2008)、「Room19」(關渡美術館、台湾、2008年)などをキュレーション。また、共同キュレーションとして、「第7回釜山国際映画祭」(韓国、2010)、「RANDOM-IZE Taipei」(台北、2003)、「Weather in My Brain: Sound-Visual Art Festival」(台北、2003)などがある。

参加アーティスト

■チェン・ジエレン(陳界仁) | Chen Chieh Jen | 台湾 –台湾を代表し世界で活躍する映像作家–

1960年台湾生まれ、在住。80年代の冷戦・戒嚴令政権下の台湾で、表現の限界に挑み、ゲリラスタイルのパフォーマンスやアングラの展覧会を実施してきた。1996年より、社会の主流から取り残された地域で、彼自身の生活を再構築する写真や映像を用いた作品を制作。北京、台北、ロサンゼルス等で個展。2012年「台北ビエンナーレ」出展。

■ユエン・グァンミン(袁廣鳴) | Yuan Goang-Ming | 台湾 –2012年恵比寿映像祭に出展–

1965年台湾生まれ、在住。国立芸術学院卒。Staatliche Hochschule fuer Gestaltung Karlsruhe(ドイツ)修士課程修了。台湾でのビデオアート制作の先駆的存在。日本での主な展示に「恵比寿映像祭」(東京都写真美術館、2012)「サイバー・アジア～メディア・アートの近未来系」(広島市現代美術館、2003)など。

■ヤオ・レイヅオン(姚瑞中) | Yao Jui-Chung | 台湾 –1997年ベネチアビエンナーレ台湾館代表作家–

1969年台湾生まれ、在住。国立芸術学院卒。「ベネチアビエンナーレ」台湾館代表(1997)。その他の主な展示に「横浜トリエンナーレ」(2005)、「アジア・パシフィック・トリエンナーレ(APT6)」(オーストラリア、2009)、「台北ビエンナーレ」(2010)など。人間の不条理さをテーマとした作品を多く発表している。

■ドゥ・ペイシー(杜珮詩) | Tu Pei-Shih | 台湾

1981年台湾生まれ、在住。ゴールドスミスカレッジ(イギリス)卒業。日本での主な展覧会に「夢か、現か、幻か」(国立国際美術館、2013)他。

■チャン・リーレン(張立人) | Chang Li-Ren | 台湾

1983 年台湾生まれ、在住。国立台湾芸術大学卒業。日本での主な展示に「部分と全体」(企画:宮津大輔、hiromiyoshii、2011 年)がある。

■チェン・ジンユエン(陳敬元) | Chen Ching-Yuan | 台湾

1984 年台湾生まれ、在住。国立台湾芸術大学卒業。主な展示歴に「Invisbleness is Visibleness: International Contemporary Art Collection of a Salaryman - 宮津大輔」(台北当代芸術館、2011)、「NEW DIRECTIONS #2 TRANS - PLEX 2010」(TWS 本郷、2010)がある。

■チェン・チンヤオ(陳肇耀) | Chen Ching-Yao | 台湾

1976 年台湾生まれ、在住。国立台湾芸術大学卒業。2012 年福岡アジア美術館にてレジデンス滞在。成果発表として「International Radio Exercise」発表。

■イエ・チェンユー(葉振宇) | Yeh Chen-Yu | 台湾

1984 年台湾生まれ、在住。国立台湾芸術大学卒業。

■ジョンペット・クスウィダナント | Jompert Kuswidananto | インドネシア

1976 年インドネシア生まれ。バリ、ジョグジャカルタ在住。ジョグジャカルタの Ga djah Mada University でコミュニケーションを学んだ後、1995～99 年の間ミュージシャンとして活動。その後独学でアーティストとしての道を歩む。インスタレーション、ビデオ、サウンド、パフォーマンスを主体とした活動の他、ジョグジャカルタの現代劇団 Teater Garasi とコラボレーションも行う。主な展示に、「Third Realm」(「ベネチアビエンナーレ」での単独プロジェクト、2011)、「ジャカルタビエンナーレ」(2011)など。

■スン・ユアン+ポン・ユウ(孫 原+彭 禹) | Sun Yuan + Peng Yu | 中国

スン・ユアン:1974 年中国生まれ。ポン・ユウ:1972 年中国生まれ。ともに中央美院(Central Academy of Fine Arts)卒、北京在住。2000 年よりユニットとして活動開始。中国現代美術を牽引する作家。人体、動物等を多用した従来の表現方法を超えた大胆な手法で、現代に生きる人々を取り巻く生と死の状況をシニカルに浮き彫りにする。

アジア・アナーキー・アライアンス 台北展情報

上記アーティストに加え、日本やアジアを代表するアーティストを紹介する展覧会を台北の關渡美術館で実施します。

展覧会名: アジア・アナーキー・アライアンス(台北編)

会期: 2014 年 5 月 16 日(金) ~ 2014 年 7 月 13 日(日)

会場: 關渡美術館(国立台北芸術大学) (<http://www.kdmofa.tnua.edu.tw/>)

アーティスト(予定): チェン・ジエレン、ユエン・グァンミン、ヤオ・レイヅオン、ドウ・ペイシー、ジャン・リーレン、チェン・ジンユエン、チェン・チンヤオ、イエ・チェンユー(台湾)、ジョンペット・クスウィダナント(インドネシア)、スン・ユアン+ポン・ユウ(中国)、会田誠、坂口恭平、照屋勇賢、潘逸舟、森村泰昌(日本)、ディン・Q・リー(ベトナム)、ジュンホ・チョン(韓国)、スッティラット・スパパリンヤ(タイ)

広報用画像 ※この他にも広報用画像を用意しております。詳しくは広報担当までお問い合わせください。



チェン・ジエレン(陳界仁)
《The Route》2006、シングルチャンネルビデオ、16分45秒



ユエン・グァンミン(袁廣鳴)
《エネルギーの風景》2013、シングルチャンネルビデオ、6分



ヤオ・レイツォン(姚瑞中)
《萬萬才》2011、シングルチャンネルビデオ、5分30秒



ドウ・ペイシー(杜佩詩)
《Visible Story》2011、3チャンネルビデオプロジェクション(参考作品)



チャン・リーレン(張立人)
《Battle City EP1》2012
シングルチャンネルビデオ、6分56秒



チェン・ジンユエン(陳敬元)
《The Flares》



チェン・テンヤオ(陳擎耀)
《International Radio Exercise》2012
シングルチャンネルビデオ、3分30秒



イエ・チェンユー(葉振宇)
《Blanket》2012、デジタルプリント



ジョンペット・クスウィダナント
《The Contingent #5》2012
ミクストメディア、インスタレーション



スン・ユアン+ポン・ユウ(孫原+彭禹)
《開けゴマ》2011、ミクストメディア